

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 1 生徒一人ひとりの持てる力を最大限に引き出す学校
- 2 希望する進路が実現できる学校
- 3 社会人として通用するマナーと社会人基礎力（考え抜く力、行動する力、コミュニケーション力）が獲得できる学校
- 4 質の高い教育により、人間性豊かな人材を育成する学校
- 5 生徒及び保護者が「入学して（入学させて）良かった」と思える学校

## 2 中期的目標

< 平成 31 年度からの 3 か年目標 >

- 1 基本的な生活習慣を自らコントロールできる生徒の育成 生徒指導の充実
  - (1) あいさつ運動や生徒との対話を重視し、安心して学習に臨み、かつ魅力のある学校づくりをめざす。
  - (2) 社会人として通用するルールやマナーについて、自ら考え自ら行動できる生徒の育成をめざす。
  - (3) 生徒個々のニーズに寄り添い、生徒が相談しやすい生徒指導体制をめざす。  
生徒向け学校教育自己診断における「学校生活についての教員の指導」に関する項目における満足度（平成 30 年度 61%）を毎年 3% 引き上げ、2021 年度には 70% にする。
- 2 夢や目標に向かって自ら努力できる生徒の育成 進路指導の充実
  - (1) 現行の「3 年間を見通した進路指導」を発展させ、新しい教育システムに適合したキャリア教育指導を再構築する。
  - (2) 教育課程の再編を通じて現行の授業内容も見直し、より個々の進路希望に対応できるような授業の質の向上をめざす。
  - (3) 大阪教育大学との連携に基づき、将来教員を志望する生徒のための新コースを設置する。2021 年度入学生より実施
  - (4) 各教科の指導内容と進路実現との関係性を重視し、教科間の意思疎通を図りながら、相互補完的な学習指導を構築する。
  - (5) ICT 機器の活用や研究発表活動、アクティブラーニングの機会を増やすことによって、生徒の学習意欲や自己表現力の向上をめざす。
  - (6) 生徒個々の学力測定を綿密に行い、計画的な学習スケジュールを提供し、家庭学習の定着化を図る。
  - (7) 外国語学習や国際交流を通じて、国際社会の一員としての自己実現をめざす。  
【進路成果指標】3 年生時点における第 1 志望大学の合格率 90% 以上。国公立大学及び難関私立大学合格者数の合計 15 名以上。  
生徒向け学校教育自己診断における「進路実現に関する項目」における満足度（平成 30 年度 85%）を毎年 2% 引き上げ、2021 年度には 91% にする。
- 3 文化・芸術・スポーツを愛し、心豊かな感性を持つ生徒の育成 特別活動の充実
  - (1) 行事や特別活動を通じ、生徒が自主的・主体的に参加できるような土壌を育成する。
  - (2) 行事や特別活動を通じ、プレゼンテーション能力の向上をめざす。
  - (3) クラス活動等の活性化から学校行事の質を向上させ、生徒の自己有用感の育成を図る。  
行事やホームルーム活動等の満足度（平成 30 年度 60%）を毎年 2% 引き上げ、2021 年度には 66% にする。
- 4 地域や社会で貢献できるボランティア精神を持つ生徒の育成 地域連携の充実
  - (1) 生徒会などと連携し、学校広報活動（学校見学会、体験入学等）や学校行事への生徒の主体的な参加を推進する。
  - (2) 「地域との連携」の中から、生徒の自己有用意識を高めるため、地域の清掃活動や各種施設等に対する、生徒の参加の機会を増やす。
  - (3) ホームページ等での情報発信力を高め、保護者や地域とのより綿密な連携を構築する。  
生徒が主体的に参加する学校説明会やボランティア活動の参加者（平成 30 年度参加 460 人）を毎年増員し、2021 年度には 550 人にする。
- 5 人の立場に立って考えることの出来る豊かな人権感覚を持つ生徒の育成 人権教育の充実
  - (1) 安全安心な学校づくりの観点から、「人権教育基本方針」や「人権教育推進プラン」等に基づき、差別を許さない力と意志を持った生徒の育成をめざす。
  - (2) 相談体制を高め、様々な課題がある生徒のサポートに対応するための環境整備を充実させる。
  - (3) 知的障がい者自立支援コース生徒に「ともに学びともに育つ」教育を実践する中で、全校生との人権意識の向上をめざす。  
生徒向け学校教育自己診断における人権教育等に関する項目における満足度（平成 30 年度 75%）を毎年 3% 引き上げ、2021 年度には 84% にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和元年 12 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒指導】 生徒の学校満足度は昨年度より少し上がっている。特に 3 年生では、80% 以上の生徒が「入学して良かった」と回答している。課題であった学校行事等については、満足度が 10 ポイント上昇（59.1% H30 49.0%）。次年度は更に高めていきたい。 「先生は生徒の意見をよく聞いてくれる」という項目では前年比 3% 減（54.5% H30 57.9%）であり、生徒との距離をもっと近づけていく努力が必要である。</p> <p>【進路指導等】 進路指導に関する項目では、相変わらず高い数値を維持しているが、「進学や就職など、進路実現に向けて適切な指導がある」の項目で 5 ポイント減じている（81.7% H30 86.7%）。今までの指導の在り方を次年度は見直し、更に改善していく。ただこれも、学年進行に伴い上昇していることは、生徒の理解や認識が、年齢とともに成熟していることが窺え、一定の教育成果と見ることができる。</p> <p>【学習指導等】 「授業で自分の考え方をまとめたり、発表したりすることがよくある」の項目が、4 ポイント、「ICT 機器の活用」についても約 7 ポイント上昇（70.6% H30 64.1%）している。今年度設置した「学力向上委員会」</p>	<p>【第 1 回：6 月 21 日】 学校経営計画より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯指導では、生徒からの意見を踏まえ、納得感のある指導につなげている。携帯は弊害もあるが、その危険性を教えながら上手に利用させる指導も肝要だ。</li> <li>・大阪教育大学と効果的な連携を取りながら、生徒への支援につなげると良い。新たに立ち上げる教員志望コースは、各教科科目の「基礎・基本」を十分学習させ、同時に特定科目の専門性を高める内容にすることが大切だ。日本の教員養成系大学でも、この部分が弱点となっている。新コース設置の参考にしてほしい。同時に、「哲学」や「心理学」の内容も加味すると良い。</li> <li>・生徒は、教えることでより深く学ぶことができる。学習に ICT 等を活用した方法を取り入れることは、生徒の学びを伸ばすことになる。</li> <li>・「意見箱」をより活用するため、1 月に 1 回必ず投函するよう呼びかける方法もある。</li> <li>・「海外語学研修」が成立しなかったことは残念だが、来年度実施に向けて頑張ってもらいたい。大阪教育大学の留学生を、語学講師としてボランティアで招くことも考えてはどうか。 次年度採用予定の教科書の紹介</li> <li>・興味深い教科書であり、内容も適切だ。 校内の授業見学</li> <li>・「良く授業を聞いている。」「立派です。」との感想。</li> </ul>

<p>の活動や、授業研究が功を奏したと思われる。次年度に向けて、この取り組みを更に発展させていく。</p> <p>「家庭での予習・復習など学習時間を確保している」の項目では、昨年度より1ポイント減じている(52.0% H30 53.4%)。特に1・2年で学習の時間が少ないようだ。次年度は、1年次から3年後を見据えた学習習慣の定着に努力していく。</p> <p><b>【特別活動】</b></p> <p>「ホームルームなどクラス活動が活発である」の項目では昨年度より7ポイント上昇した(66.9% H30 60.4%)。「文化祭、体育祭、修学旅行などは楽しく行えるよう工夫されている」の項目も10ポイント上がっている(59.1% H30 49.0%)ことも含め、今年度最も成果を上げた部分である。学年や生徒会の取り組みを踏まえ、より生徒参加型の行事の提案をしていく。</p> <p><b>【地域連携】</b></p> <p>今年度は地域との連携の機会が大幅に増加した。近隣の複数の小学校との連携では、本校生徒によるボランティア参加や部活動あがての支援事業等も加わり活発であった。大阪教育大学との連携事業では、「国際交流事業」で教育大留学生との交流を実施。また「英検チャレンジ」では、本校生徒への大学生によるスピーキング支援等も行われた。</p> <p><b>【人権教育】</b></p> <p>「命を大切に心や社会のルールを守る態度を学ぶ機会がある」の項目は昨年度比2ポイント減少(72.8% H30 74.6%)している。それでも73%の生徒が肯定的に捉えており、特に問題は無い。しかし、あらゆる場面を活用して人権教育につなげていくことも大切で、次年度はそういった観点から職員研修を企画していく。</p>	<p><b>【第2回：11月11日】</b></p> <p>第1回授業アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学や英語のスコアは高いようだ。ただ、授業内容や出題が易しいものになっていないか、チェックすることも重要だ。例えば、テストを作る際に、集中して授業を受けていれば何点取れるかという観点で作成するなど全員で共有すれば有効だと思う。</li> <li>・成績の分布や最高点・最低点などの資料を作成し、中学校へ示すなどの工夫をしたらどうか。</li> <li>・出題の意図を生徒に周知したり、考えさせる問題を多く出題することも良いと思う。最近の傾向として、問題数が多すぎて考えて解くことが疎かになっている風潮が他校などでは見受けられる。</li> <li>・教員へのフィードバックの方法を工夫することも良い。</li> </ul> <p>広報活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は生徒指導が厳しいのかという質問を中学校から受けた場合、中学校と比べてどうなのか、自主性を養う機会があったり、生徒の意見を取り入れて見直しを行っているなど、中学校に説明できるようにしておくことが大切だ。</li> <li>・入学式や卒業式など、少し硬いイメージもある。</li> </ul> <p>小高連携・高大連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こうした連携事業に参加した生徒は、自己の進路を見つめる良い機会となっている。</li> <li>・少子化の折から、小学生との交流は高校生にとって良い体験になる。</li> <li>・八尾市とも連携しており、地域連携が高校教育に果たす役割は非常に大きい。今後ともこうした活動を続けていってもらいたい。</li> </ul> <p><b>【第3回：2月3日】</b></p> <p>令和元年度学校教育自己診断アンケート結果より</p> <p>学校生活に対する満足度について、1年生は昨年度よりも高くなっている。2年生は毎年のことではあるが中だるみ状態といえる。一方3年生は高いスコアを示しており、3年次での高スコアは、本校の特徴の一つでもある。学力や社会人基礎力など、目に見える形で自己の成長が生徒に認識されてくる時期に合わせて、評価が高くなっていると考えられる。また特質すべき特徴として、行事やホームルーム活動への満足度が大きく上昇している点もあげられる。</p> <p><b>【意見・提言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート項目の中の「学習時間の確保」があまり振るわないのは気になる。プリント中心の授業では、答えを書き込むことが目的となる結果、内容把握のみならず、考え方や答えに至る道筋といったところにまで意識がいかないのではないかと。</li> <li>・教科書等、本で学習する習慣が今の高校生には少ないようだ。教科書を読み込むことで、生徒自身が授業を再現したり、全体像を把握できたりする。</li> <li>・「いじめはない」ということであるが、素晴らしいことである。</li> </ul> <p>来年度学校経営計画について</p> <p>この新入生から「教職トライコース」が発足する。2年次より科目「教職講義」など、教員としての資質を育てる授業が用意されることになる。また、生徒がもっと「入ってよかった」と思える学校にしていくと同時に、ICT機器の充実や海外語学研修旅行の開催、行事面での工夫も行っていく。また今年以上に、生徒が地域に出かけて様々な活動ができるように計画したい。</p> <p><b>【意見・提言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学との連携においては、高校側の負担を減らすことと同時に、もっと大学側を利用してもよい。</li> <li>・文化祭などの行事をより充実させていくことや、地域連携も今年度以上にやりがばってほしい。</li> </ul>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒指導の充実	<p>(1) 生徒との対話と学校生活における満足度の向上</p> <p>(2) 社会ルールの獲得と自己表現力の育成</p> <p>(3) 生徒の立場に配慮した生徒指導の充実</p>	<p>(1) 生徒と積極的に対話を重ね、生徒が主体的に行動するよう働きかけるとともに、生徒の活躍を校内で紹介し、活気ある学校にする。</p> <p>(2) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒が自ら考え行動するよう生徒にとって納得感のある指導を行い、自主的に社会規範を身に付けるよう計画する。 <input checked="" type="checkbox"/> 授業やHR活動にディベートなどをこれまで以上に積極的に取り入れ、生徒が自ら考え発表する機会を増加させる。</p> <p>(3) 生徒が気軽に相談できる雰囲気が高まるよう、教員のカウンセリングマインドの更なる充実に向けた研修等を実施する。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断における学校生活等の項目における肯定的回答の向上 H30年度 61% 65%目標</p> <p>(2) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答の向上 H30年度 58% 67%目標 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断アンケートにおけるプレゼン能力の肯定的回答の向上 H30年度 62% 70%</p> <p>(3) 学校教育自己診断における教員と生徒の距離感に関する項目での肯定的回答の向上 H30年度 55% 60%</p>	<p>(1) モニター等で生徒の活躍を紹介した。行事ごとに内容を更新したところ、見ている生徒が増え、生徒に浸透してきた。今後、生徒が主体的に行動できるよう雰囲気づくりに更に取り組む。63% ( )</p> <p>(2) <input checked="" type="checkbox"/> 昨年度と同様の結果となった。自主的に考え行動できるように進めたい。59% ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒が発表する機会を積極的に設けるなど一定の成果があった。66% ( )</p> <p>(3) 教員研修等を通じて向上に努めたい。52% ( )</p>

府立八尾翠翔高等学校

<p>2 進路指導の充実</p>	<p>(1) キャリア教育指導の再構築  (2) 授業改善に係るシステムの構築  (3) 系統立てた教科指導の確立  (4) 学習意欲向上と自己表現力の育成  (5) 家庭学習の定着  (6) 語学研修や国際交流活動の活性化</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/> 生徒向けの進路選択及び科目選択について、個々の教員のガイダンス能力を高める。 <input type="checkbox"/> 授業や調べ学習、セミナー等において、積極的にキャリアガイダンスセンターを活用するとともに、教員が生徒と対話を重ねながら、生徒のモチベーションを維持し、個々の進路選択について支援する。 <input type="checkbox"/> 将来、教員を志望する生徒を対象とした新たなコース設置に向けた準備を行う。 (2) 教員相互の授業見学・授業研究週間を年2回実施すると同時に、先端的な教科指導に関する研修を開催し、教員の授業力の更なる向上をめざす。 (3) 各教科が育てたい生徒と身に着けさせたい学力を確認し、3年間の指導計画を作成する。同時に「授業改善」に向けた議論と教材の共有化を図り業務の効率化をめざす。 (4) <input type="checkbox"/> ICT 機器や視聴覚教材を活用して授業展開に工夫を加えるなど、生徒の学習意欲向上に繋がる授業づくりを推進する。 <input type="checkbox"/> グループ学習やペア学習、研究発表などアクティブラーニングを活性化し、生徒の理解力、自己表現力の向上をめざす。 (5) 生徒が継続的に家庭学習に取り組むために、教育産業による学力検査等を利用し、個々の学力目標に向けた学習計画を作成し支援する。 (6) 海外語学研修を計画、実施する。また海外から学校訪問を希望する生徒を積極的に受け入れる。</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/> 及び <input type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における進路指導、進路ガイダンスに関する肯定的回答の向上 H30年度 85% 88%目標 卒業時の国公立大学及び難関私立大学合格者数の合計 15人以上 <input type="checkbox"/> 新コースの教育課程編成 9月目標 (2) 生徒向け学校教育自己診断における授業改善に関して、肯定的回答の向上 H30年度 67% 70%目標 授業アンケート全教科平均値の向上 H30年度 3.25 3.29目標 (3) 平成30年度教員研修(教科・授業指導)教員相互の授業見学を受けての教員研修・教科会議(各2回) 「学力向上委員会」を設置し提言を行う。「自己申告票」で教材の共有化に向けた取組みを全教員が各自記載する。 (4) <input type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断におけるICT機器に関する項目の肯定的回答の向上 H30年度 64% 67%目標 <input type="checkbox"/> 会議室をICTルーム化し、教員の積極的な活用を図る。 全教員の80%の活用が目標 (5) 生徒向け学校教育自己診断における家庭学習状況に関する項目における肯定的回答の向上 H30年度 53% 57%目標 (6) 海外語学研修の実施。参加者 25人目標。(平成30年度実施せず)</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/> 及び <input type="checkbox"/> スコアは伸び悩んでいるが、高い数値には変わりない。新たな情報を取り入れるなど工夫をしていきたい。 82%( ) 10人 <input type="checkbox"/> 7月末、新コースの教育課程編成が完了した。( ) (2) 授業力向上に向け、授業見学週間・研究授業を年2回実施、一定の成果を得たが、更に向上に努める。67%( ) 授業アンケート 3.18%( ) (3) 教員相互の授業見学で授業観察シートを記入、教科会議での検討につなげた。 「学力向上委員会」を設置し、達成目標等を職員会議で示した。教材の共有化を各教員が意識して行った。( ) (4) <input type="checkbox"/> 大きくスコアを伸ばした。 71%( ) <input type="checkbox"/> 機器整備完了。 次年度活用予定( ) (5) 次年度も課題のひとつとして継続して取り組んでいく。計画的な学習に向け、課題のあり方について再考していく。52%( ) (6) 目標人数に未達のため実施せず。次年度は実施予定。( )</p>
<p>3 特別活動の充実</p>	<p>(1) 生徒の主体的な活動の活性化  (2) プレゼンテーション能力の育成  (3) ホームルーム活動の活発化</p>	<p>(1) 学校行事等の企画・運営段階からの生徒の積極参加を促し、生徒が自ら運営し実現したという達成感を獲得できるようにする。 (2) 学校行事や総合学習における生徒のプレゼンテーションの機会を増やす。 (3) 対話的・主体的なホームルーム活動を行い、生徒会活動や部活動を中心に、生徒の意見を吸い上げ、その活性化を図る</p>	<p>(1) 学校教育自己診断アンケートにおける肯定的回答の向上 H30年度 49% 60%目標 (2) 生徒向け学校教育自己診断での、プレゼン機会の肯定的回答の向上 H30年度 62% 70%目標 (3) 「意見箱」の意見を反映 部活動参加率 H30年度 64% 65%目標</p>	<p>(1) これまで低迷していた項目であるが、10ポイント向上を達成し、ほぼ目標に達した。次年度は更に改善していきたい。59%( ) (2) 授業だけでなく、学校説明会等でも生徒にプレゼンさせ、機会を捉えて実行していることで確実に効果を上げている。次年度につなげたい。66%( ) (3) 「意見箱」への投函が少ないので利用方法を含め、今後工夫していく。部活動参加率 56%( )</p>
<p>4 地域連携の充実</p>	<p>(1) 学校広報活動の推進  (2) 生徒による地域進出の推進  (3) 情報発信力の再構築  (4) 大阪教育大学との連携</p>	<p>(1) 学校説明会や体験入学、中学校への学校案内における生徒主体の広報活動を展開する。  大教大と連携して作成した新学校紹介リーフレットの配布 (2) 曙川東地区等の清掃活動や、地域の保育園・高齢者福祉施設等と連携した生徒の活動を増やし、愛される学校をめざす。 (3) 本校の取組みを、ホームページ等を活用し、積極的に発信する。 地元中学校との連携強化を図る。 (4) 大教大との連携による学習支援等を積極的に活用する。 大教大主催の教員志望者プログラムへの参加を積極的に薦める</p>	<p>(1) 広報活動への生徒参加者数 H30年度：生徒参加延べ 361人参加 H31年度：370人参加目標 新リーフレットを八尾・柏原・東大阪市中学校を中心に広く配布 (2) 地域のボランティアへの参加者数 H30年度：延べ 460人参加 H31年度：延べ 500人参加目標 (3) ホームページのブログ更新 50回/年、 (4) 学校説明会参加者数 延べ 400人 目標 地元中学3年生を本校に招き「翠翔 day」開催 学習支援・英検チャレンジ等の連携メニュー参加者数 H30 延べ 1049人 1100人目標 「教師まっすぐ」への参加者数 10人目標</p>	<p>(1) 学校説明会等で生徒によるプレゼンテーションを積極的に取り入れた。延べ 300人参加( ) 大教大と連携し、リーフレットを作成し、配布した。( ) (2) 南高安地区、曙川東地区等近隣へのボランティアを積極的に進めた。約 400人( ) (3) ブログ管理を徹底し、部活動等発信を強化した。全クラブで計 157回更新( ) (4) 中学校側の事情により翠翔 day は開催できなかった。( ) 次年度実施の方向 5地区合同説明会会場校となり、当日約 1100人の来校者があった。体験入学会参加者は昨年(約 200人)となるなど、学校説明会参加者は大幅に伸びた。521人(校内実施分のみ)( ) 「教師まっすぐ」参加者 2人( )</p>

府立八尾翠翔高等学校

<p>5 人権教育の充実</p>	<p>(1) 安全安心な学校作りの推進  (2) 生徒相談体制の環境整備  (3) 自立支援コース生徒との交流促進</p>	<p>(1) 不登校や問題事象の兆候を感知できる教員力の強化とともに、いじめに対しては、早期発見に努めるとともに、事象に対しては、組織的に迅速な対応を行う。  (2) 様々な相談に対応できるように、関係教員のスキルアップを図ると同時に、発達障がい等に対するケアについても的確に指導できる体制を構築する。  (3) 自立支援コース生徒への教育活動を通して「ともに学び、ともに育つ」教育を一層充実させ、生徒の自己肯定感を育むとともに、コース生以外の生徒との協働作業を通じて相互理解を深め、信頼し励ましあう関係を作る。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目での肯定的回答の向上 H30年度 75% 78%目標 いじめに関するアンケートを年1回実施  (2) 生徒向け学校教育自己診断の教育相談等の項目における肯定的回答の向上 H30年度 52% 55%目標  (3) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目での肯定的回答の向上 H30年度 75% 78%目標 自立支援・共生推進卒業生アンケートにおいて同級生の肯定的回答の向上 H30年度 76% 80%</p>	<p>(1) 人権意識に関する項目の肯定的回答の向上にむけ、今後とも人権行事等に工夫を加えていく。73% ( )  (2) 教職員のスキルアップに向け、職員研修を実施していく。49% ( )  (3) 生徒の自己肯定感の育成に努めていく。73% ( ) 学校行事等での協働作業を通じて相互理解は深まっている。</p>
----------------------	---	--	---	--